

水稻・麦・大豆栽培情報 5月号

平成27年5月15日
J A 柳 川
南筑後普及指導センター

【小麦】

1 生育概況

3月下旬から4月初旬に気温がやや高く推移し、出穂期は前年、平年よりやや早くなりました。赤かび病については、開花期の気温が低く、発生は少ない状況です。穂数は、おおむね平年並に確保されています。成熟期は、今後の気温が平年並で経過した場合、前年よりやや早くなると予想されます。

2 収穫適期

11月20日播種の小麦の出穂期及び予想収穫適期は、下表のとおりです。播種時期が大幅に遅い場合は、出穂期や成熟期も遅くなりますので、ほ場毎に収穫適期を見極め、収穫作業を行ってください。

予想収穫適期			
品種名	出穂期	予想収穫適期	備考
シロガネコムギ	4月6日	5月30日～	播種時期、出穂期によって収穫適期は異なります
ミナミノカオリ	4月11日	6月4日～	

※収穫の際は、必ずJAの定めた荷受計画に従ってください。

3 その他

カラスノエンドウ（マメ科雑草）の種子が小麦の収穫時に混入すると、調製で除去できないため、検査等級を低下させる原因となります。コンバインでの収穫作業前に、ほ場内のカラスノエンドウを除去するとともに、次年度以降の発生を抑えるために、畦畔の分も除去するよう心がけてください。

2015年春の農作業安全確認運動

農作業 慣れと油断が 招く事故

【水稻】

1 播種準備

(1) 種子消毒

※昨年、いもち病が多発したため、いもち病対策を強化します。

JA から配布された種子は、農薬が粉衣されています（色がついている）が、本年度いもち病対策を強化するために種籾 10kg 当たりベンレート水和剤 20gを水 20ℓ(1,000 倍)にとかして 24 時間浸漬します。(種籾と水量の割合 1 : 2)

昨年までは、種籾を水にそのまま漬けていましたが、今回は、ベンレート水和剤を調製した薬液に漬けます。

※「ヒヨクモチ」は、減農薬栽培のため、エコホープD J で種子消毒を行ってください。(薬剤 100g を水 20ℓ(200 倍)にとかして 24 時間浸漬)

・温湯消毒を行う場合は、60℃の湯に 10 分間浸漬します。

200ℓの湯に 10kg の種籾が目安です。

(2) 浸種

浸種は、籾から芽が少し出る時期まで行います。期間は、種子消毒の期間を含め 4～5 日程度が目安となります。芽が伸びすぎると、播種時に芽を傷めるので十分注意してください。

2 播種

播種量は育苗日数 20 日の場合で、乾籾 140～160 g / 箱程度とします。育苗日数が長くなる場合は、播種量を減らし、苗が老化しないようにします。

3 育苗

播種後は、カビなどの病害の発生を防ぐため平床出芽を行ってください。寒冷紗を 2 重に被せ、5～7 日程度（苗長 3～4 cm）で 1 重にし、その後 2～3 日程度（苗長 4～5 cm）で完全にはがします。灌水は 2 重被覆期は 1 日 1 回を目安に、その後、苗の生育に応じて回数を増やします。過度の灌水は根の生育を阻害するので注意します。

なお、「元気つくし」の苗は「ヒノヒカリ」と比較して、伸びやすい特性があるので寒冷紗は早めに除去してください。

4 土づくり

代かき前に、ミネラルG（珪鉄含有資材）やとれ太郎（珪酸質資材）、アヅミン（腐植酸質資材）等の土壌改良材を投入して、健全な稲づくりの準備を行いましょ。